

就職活動は『自分探し』の始めの第一歩

～二歩目を踏み出した私からのメッセージ～

日本経済新聞社 文化・事業局 総合事業部 紅林 真由美

● はじめに

平成14年12月11日に「自分に贈る『私の履歴書』—自分探しの旅を楽しもう」というテーマで「経営実務特別講義」をさせていただく機会をいただきました。ここで、その内容の一部をご紹介します。

● 出会いの場をつくるのが私の仕事

私は、社会人10年目。現在、日本経済新聞社で展示会やシンポジウム、国際会議などを企画・運営する部署にいます。入社以来、日経の主な読者であるビジネスマンを対象としたイベントを何本も担当し、“新しい情報を提供する”という新聞社の社会的役割を果たしてきました。

新聞は限られた文字数で情報を伝える媒体です。ですからどうしても伝えきれない情報が出てきてしまいます。新聞紙面では伝えきれない情報をイベントという形にして、人々に提供するのが私の仕事です。展示会やシンポジウムという空間を作り上げることによって、人と人との新しい接点、出会いを生み出すきっかけを作ることができる—これが私が自分の仕事が好きである最大の理由です。このような空間がなければ、きっと会うことがなかったであろう人々が出会い、新しいビジネスが誕生したり、新しいアイデアが生まれたりしています。また、講演会を聴いて、勇気づけられたり、感動したり、仕事に役立てたりしている人が大勢います。そういう出会いの場を私はつくっているのだ、と思うと本当にやりがいがあるのです。

● 妊娠、出産、そして産休・育児休業取得

やりがいのある仕事に新入社員のときから携わらせてもらい、私は、とにかく仕事が好きで、ばりばり働いてきました。1ヶ月に100時間以上残業することもざらでした。他の社員は、ほとんど男性ですが、私が女性だからといって、上司や同僚から特別扱いされることもありませんでしたし、私も自分が女性だということを意識することなく、楽しく仕事をさせてもらいました。たまたま私は恵まれていて、ハードなスケジュールでも無理なくこなせてしまうほど体力と気力があつたのも、非常にラッキーでした。この仕事に適した人材なのだ、という自負がありました。

そんな私にも、自分が他の男性社員と異なり、女性であることを意識せざるを得ないことが起こりました。平成14年初春に妊娠したことがわかったのです。そして8月末に出産しました。あんなに仕事が好きだった私が今は、お仕事を一時的にお休みしています。そして育児に専念しています。妊娠がわかったときは、もちろん嬉しかったのですが、とにかくどうしよう、とまず思いました。どう考えても今までのような、深夜まで仕事に没頭するというような仕事のやり方はできなくなってしまう。好きなだけ仕事ができない、出世もできないかもしれない……とにかく「〇〇〇できない」と否定的なことばかり考えていました。とにかくできるところまで仕事をしようと思い、大きなお腹を抱えて、なんと出産する4日前まで仕事をしてしまいました。仕事を中断することが怖かったです。今までの自分のキャリアが全て無になってしまうのではないか、他の社員から取り残されてしまうのではないかと。

しかし、そのような恐怖感も、出産直後は吹っ飛んでしまい、育児をするだけで精一杯。仕事やこれからの自分のキャリアについて考える余裕が全くと言っていいほどありませんでした。出産から（講義をさせていただいた時点では）3ヵ月半たち、これからどのように自分は生きていきたいのか、ようやく考えられるようになりました。この講義をするにあたって皆さんにお話する内容を考え始めることが良いきっかけとなりました。今では、不思議なことに、出産前に感じていた「〇〇〇できない」という否定的な考えを一切しないように自然となりました。むしろ会社に復帰したら仕事も育児も、そして家事もしなくてはならない。もうしなくてはいけないことがたくさんあって、本当に大丈夫なのかと心配になってしまうぐらいです。

● 就職活動は『自分探し』の始めの第一歩

自分は今まで何をやってきたのか、どういうことに興味があって、これから何がやりたいのか。数年後どのような人になりたいのか—若い皆さんは、今まで生きてきた20年弱の間を振り返ってみたり、落ち着いて真剣に自分の将来について考えたりする機会はあまりなかったのではないかと思います。しかし、これから年を重ねていくにつれ、その機会は増えてくるでしょう。皆さんにとっては、就職活動が、自分はどのような人間になりたいのかを考える「自分探し」の始めの一歩となるのです。

これまで私も、幾度となく「自分探し」をしてきました。皆さんのように、就職活動のとき、結婚してライフスタイルが変わるとき。このまま同じ仕事をし続けているだけで本当にいいのだろうか、と悩んだときも何度もありました。そして今回、妊娠、出産、産休・育児休業の取得は、私にとって「自分探し」の大きな二歩目となりました。

● 日々の積み重ねがキャリアを形成

今回、仕事をがむしゃらにしてきた私が、出産を機に一度立ち止まることで、気がついたことがあります。それは、日々の積み重ねが自分のキャリアを形成しているのだということです。社会人になって会社勤めをしても、毎日劇的なことが起きるわけではありません。でも、仕事を続けていれば、少しずつかもしれないけれども、確実に前に進みます。決して後退することはありません。毎日自分の履歴書が更新されるのです。私は走りつづけていたときは、何に向かって前進しているのか手探り状態で、よくわかっていませんでした。しかし、今回お休みして、今まで仕事をしてきた10年間を振り返ってみて、実にいろいろなことをやってきたのだな、と自分自身で感心してしまいました。皆さんは、就職活動をすることで、学生時代に自分は結構頑張ってきたのだなときっと気が付かれることでしょう。ここで、一度自分を誉めてあげてください。そしてまた前進してください。何事も始めの一歩を踏み出すことは、勇気がいることです。でも、就職活動を良いきっかけにして、社会にはばたいて欲しいと思います。私はこれから二歩目を踏み出します。出産と育児という新しい経験が仕事で生かせるといいな、と思っています。

最後になりましたが、今回、この講義をする機会、また文章化する機会をくださった杵

淵先生に御礼申し上げます。私自身も、復帰後どのようなワークスタイルを貫きたいのか、考える良い機会になりました。私のこの講義が、少しでも短期大学部の皆様のご参考になれば幸いです。ありがとうございました。